

# ICTを活用した学習を紹介します～長浜市立古保利小学校～

この日、古保利小学校では、6年生の「道徳」の授業でICTを活用。「本当の友達とは」というテーマの学習では、子どもたちは教科書に加え、タブレットのロイロノート・スクールを使って学習を深めました。

この日の授業では、資料に登場する人物の気持ちをロイロノートのカードに記入し、先生に送信しました。先生は子どもたちが送信した意見を大型モニターに映し出し、一人ひとりがどのような意見を持っているか視覚的にとらえられるように工夫をして授業を行いました。



▲タブレットを使用した授業風景



▲意見を分類し視覚的に捉える

また、何人かのカードをピックアップして比較検討させたり、意見を交流させたりするなど、ICTの良さを生かした工夫もあり、手元の教員機を巧みに操作し、子どもたちの意見を次々に取り上げながら、「子どもたちが考え、議論する」道徳の授業を展開しました。

また、ロイロノート以外にも、フォーム機能を使った事前アンケートを授業の導入とまとめに生かすなど、ICTを様々な形で活用していました。

## 先生たちの学習研究を紹介します



学校の先生たちも、子どもたちの学びが変わっていくことに合わせ、効果的な指導方法の研究に日々取り組んでいます。

まずは、使ってみることが大事だと感じました。使っていく中で慣れていく、慣れてきたらどういったふうに使っていくか、授業にどう活かすか、活かされるかを考えていくことが必要。今後、ICTを積極的に活用し、子どもたちの学びを充実させていきたいです。



学習用端末を効果的に活用するためには、操作方法などのスキルの向上とともに、インターネットの安全利用やオンライン学習の実施に適切に対応するため、情報モラル教育の徹底も重要な課題です。

## 新たな学びのスタイルへ

子どもたち一人ひとりに1台の情報端末が導入され、授業や家庭学習で活用する時代が到来しました。

しかし、忘れてはいけないのは、タブレットはあくまでも「**学びを深めるための1つの道具**」であるという事です。道具を上手に使いこなすためには、まず道具のことをしっかりと理解する必要があります。さらに、約束やルールがなぜ必要なのかをわかったうえで、「**習うより慣れる**」の精神で教員も児童生徒もどんどん使っていきたいと思っています。

今までの授業では実現できなかった学びを可能にする道具になるように、そして、「**主体的・対話的で深い学び**」がこのタブレットから広がっていくように、多様な活用方法を提案していきたいと考えています。



長浜市ICT教育推進 普及員

筑田 利美